

事例番号:300463

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 38 週 0 日 胎児心拍数陣痛図で一過性頻脈、基線細変動を認める

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 3 日

時刻不明 胎動減少のため受診、血圧 146/85mmHg、再測定で
148/90mmHg

9:54- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動減少、遅発一過性徐脈、一過性
頻脈消失を認める

12:15 胎動減少、胎児心拍異常のため入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 3 日

15:30 胎動減少、胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 羊水過少、胎盤病理組織学検査で絨毛膜羊膜炎 I 度(中山
分類)

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数 38 週 3 日

(2) 出生時体重:2578g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.035、PCO₂ 66.0mmHg、PO₂ 8mmHg、

HCO₃⁻ 17.6mmol/L、BE -13mmol/L、血糖 53mg/dL

(4) アプガースコア:生後 1 分 5 点、生後 5 分 6 点

(5) 新生児蘇生：人工呼吸（バッグ・マスク）

(6) 診断等：

出生当日 子宮内感染症、新生児仮死、血小板減少、遷延性肺高血圧

(7) 頭部画像所見：

生後 7 日 頭部 CT で右前頭部に点状の小出血巣を認める

生後 37 日 頭部 MRI で、両側側脳室周囲白質に多発性の嚢胞形成を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分：診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 3 名、小児科医 1 名

看護スタッフ：助産師 4 名、看護師 3 名、准看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊婦健診を行った妊娠 38 週 0 日以降、妊娠 38 週 3 日の受診までの間に生じた胎児の脳の低酸素や虚血と、出生後の頭蓋内出血の両方による中枢神経障害であると考えられる。

(2) 胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、胎盤機能不全および臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性を否定できない。

(3) 頭蓋内出血の原因は、血小板減少の可能性はある。

(4) 子宮内感染が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性はある。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 38 週 3 日の受診時の胎児心拍数陣痛図上、一過性頻脈(-)、胎児機能不全と診断したこと、およびその後の対応（超音波断層法、血液検査実施、帝王切開の可能性ありと説明、入院管理、分娩監視装置連続装着）はいずれも一般的である。

(2) 胎動減少、胎児機能不全と診断し、小児科医立ち会いで帝王切開を実施し

たことは一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

(4) 胎盤病理組織学検査を行なったことは適確である。

3) 新生児経過

(1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、酸素投与)は一般的である。

(2) 呼吸困難、臍帯血 CRP 陽性、血小板減少のため、高次医療機関 NICU へ搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

陣痛開始前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

陣痛開始前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。